令和６年度第３回今治市通学区域調整審議会　議事録

１　開催日時　令和６年１２月２６日（木）午前１０時～午後１２時００分
２　開催場所　今治市役所第３別館２階　３２１会議室
３　出席者　　委員）１２名
　城戸茂、淺川文雄、村上保廣、重見公明、長尾正人、久保田茜、
　中川豊和、門岡達也、藤原勝彦、高橋典子、丹後佳代、大成経凡
アドバイザー）２名　小宮山利恵子、増田茂樹
３　事務局　　小澤教育長、鳥生(敬)副教育長、波頭教育政策局長、
教育大綱推進課：鳥生(幸)課長、﨑山課長補佐、
越智学校適正配置係長、大久保主事
学校教育課　　：井上課長、中辻課長補佐
６　傍聴者　　０人

７　議事　　（１）各地域での説明会の結果について
（２）小中学生、就学前乳幼児の保護者等及び教職員へのアンケート結果について
（３）意見交換
・望ましい学校規模と学校配置
（４）その他
・前回（第２回）に求められた資料の説明

８　議事録（要点筆記）　文中（※）は補足した内容

会長	本日は、お忙しい所、第３回今治市通学区域調整審議会にご参集いただきまして、ありがとうございます。 審議会開催にあたり、会議は原則公開となっておりますけれども本日は傍聴希望がありませんことをご報告させていただきます。 委員定数１３名のうち、出席者は１２名となっており、今治市通学区域調整審議会規則第４条第２項の規定により、定足数に達しておりますので、本日の審議会が成立しておりますことをご報告いたします。 それでは、本日の会議録署名人を指名させていただきます。 署名人を村上保廣委員と髙橋典子委員にお願いします。 （両委員　了承）
会長	それでは、これから次第２　議事に入ります。 これまで第１回から第２回においては、適正規模や適正配置の全般に関わるご意見を委員の皆様から頂きました。 今回は、より具体的に適正規模や適正配置に関わるご意見をいた

	だく予定です。 　そのため、各地域での説明会の結果、そして小中学生の保護者、就学前乳幼児の保護者等及び教職員へのアンケートの結果を事務局から説明いただいた上で、これらの結果を基にした学校規模や配置基準について委員の皆様からご意見をいただく予定です。
会長	それではまず、各地域での説明会の結果について事務局からの説明を求めます。
事務局	お手元資料１をご覧ください。 （資料１　市内各地域（１８地域）での説明会の結果報告書）
会長	続いて、小中学生、就学前乳幼児の保護者等及び教職員へのアンケート結果について、事務局からの説明を求めます。
事務局	お手元資料２をご覧ください。 （資料２　アンケート結果報告書） 　お手元資料３をご覧ください。 （資料３　国が示す標準数、学級編制の基準）
事務局	以上で事務局からの説明を終わります。
会長	地域での説明会、そして保護者や教職員へのアンケート結果、並びに国や県での配置の考え方や今治市の状況を事務局から説明していただいた。 　それではこれまでのことを踏まえまして、この後の時間は今治市における望ましい学校規模や学校配置について、委員の皆様方からご意見をいただきたい。
Ａ委員	学習アシスタントの導入について、もう少し詳しい運用方法や、現在すでに施行されている現状を聞かせていただきたい。
会長	事務局から、学習アシスタントの運用方法等の現状を説明願う。
事務局	学習アシスタントは、現在４１名を市費で配置している。各学校１名を基本にしているが、１日のうちに６時間ほどの授業がある。１日６時間支援していただくということをイメージして、配置して

	いる。主に、学校業務全般には関わっていただいているが、体力の向上も含めて、学力の向上に携わっていただいているというのが現状である。
Ａ委員	補助教員という言い方をすることもあるかと思うが、これは同じものと考えてよろしいか。 昔、学習アシスタントという言葉があまり私の小学校で出ることがなかった。補助教員という言い方をして、例えばちょっと発達に差があるようなお子さんに、担任の先生とは別についている先生とかはいるが、この先生が学習アシスタントというポジションではないのか。
事務局	市費の教職員については、例えば学習アシスタント、生活学校生活支援員という特別支援教育に主に携わっている方、あとスクールサポートスタッフ。 このように大きく分けると３種の方がいるが、授業に入ってＴ２（※集団全体を見ながら、支援が必要な児童生徒を中心に支援する補助教員）の役割をしているのは主に学習アシスタントである。 学校生活支援員については、特に特別支援教育の生活支援が必要な方、時には学習にも携わってもらっているが、主に生活の方を支援しているというのが現状である。 その方が補助教員という表現かわからないが、いわゆる本務者ではない、教員ではない方で、Ｔ２（※）の役割をしているということです。 よろしいでしょうか。
Ａ委員	ありがとうございます。 その方は、資格的な部分としては、どのような資格を有することが求められているのか。教員免許がないけれど、補助教員のような形で学校に携わっている方もいるという認識があるので、その辺、線引や担当できる管轄の部分でなど、その辺を聞かせてほしい。
事務局	特に資格を有しているわけではない。 学校教育に理解と協力いただける方にお願いしており、ただ市の嘱託講師の方は５名いるが、その方については、教員免許を持たれてる方に依頼している。 主に中学校の方に配置しているが、それ以外の方は、教員免許は持ってなくて、Ｔ２（※）で、子供たちの学習や生活を支援してい

	るという、大きな枠組みでは補助教員になると思う。
A委員	はい。ありがとうございます。 もしかして私もそういう補助教員的な役割で学校に入れたりするのか、地域の方やそのような志持たれてる方がいると思い、その辺を確認したかった。ありがとうございます。
B委員	２つあるが、その前に私はこの適正配置の会議に出る前は、統廃合をするということに対して、どちらかというと、抵抗感があった。しかし、今治地域ではないが実際に統廃合を目前にしている友人がおり話を聞く機会があった。統合が目の前に迫ったものの去年統廃合されなかったという結果になったが、実は自分たちは統廃合したかったっていう意見を聞き、それは何でかということを聞いた時に、地域の方はやっぱり残して欲しいという意見がすごく多かった。 ただ、中にいる保護者からしたら、実は統合への賛成意見がほとんどで、反対意見が本当にすごくごく少数だったということを聞き、資料１に書いているその割合というものが、すごく見えにくいなと私も感じた。 その中で２つ問題かなと思っていて、１つ目だが、学校というものをどのように捉えているかというところが、広義な捉え方でそれぞれの認識としての学校という言葉を使っているんじゃないかなと思えたところが、保護者っていうのは、自分たちの子供を、今現在預けている実際の学校という場所、地域の方でいうとその学校というものをコミュニケーションする場として残して欲しいっていうふうに使われてるんじゃないかなというふうに考えたときに、この小学校、中学校統廃合するっていうことだけではなくて、このことから、地域としてどうしていくかっていう連携をしっかり持っていかないと、じゃあ統廃合をしてほしかったのはなんで、と聞いたときに、負担が大き過ぎるということだった。小学校中学校の子供を持っている、1 世帯 3 人子供を持ってるとしたらそれだけ役割が回ってくる。 地域の方たちからすると、やってもらって当然だというふうに若者、子育て世代のお父さんお母さんに対して負担もすごく大きいんだっていうことを聞いて、そのあたりまず１つ目お聞きしたかったのが、この統廃合の会合をするにあたってどれぐらいその地域の方と連携の状況が取れているか、例えば小学校がなくなったとして、その地域行事をどう残していくかとか、そのコミュニケーションの

場をどう取っていくか、実際どの地域にも、学校は今活用されてると思うが、公民館はすごくガラガラでなかなか使い手がない状況で、もったいないっていうことも聞くが、そういうような

連携の状況が知りたいなと思ったのが１つある。

もう１つ目は、先ほどの学級編成のものにも関わるので配っていただいてる書類を私もさっき見たところがあって、先に話していいかわからないが、資料 4－2 を見ていた。小中一貫教育における、教員の意義の考え方というところで、コマ数。授業数のところを持ち合えば、それがいいんじゃないか、要するに小学校の授業を中学校の先生がすればいいんじゃないかと書いているが、これは授業数の問題だけであって、中学校の授業をする、小学校の授業をするってなったときにその裏にある、授業を作るっていう部分が全くここに入ってないなっていうことを私はすごく不安に思った。

前回、私はペーパーティーチャーの話をしたと思うが、教員がすごく少ないというふうに言われており、私も先生方と話をする時に夜遅くまで学校に電気がついている。残業にはお金が払われていない状況の中で、やっと来年から徐々に残業代もつけていこうという話が国の方からも進んでると思うが、これが可能なのかどうか。

先生方の意見として学校現場の教職員配置って、今あるものが本当にすでに適切であるのかどうかっていう声をやっぱりいただいて、先生に対する手当も入れていかないと、この資料２　学級数のところにも現れていると思うが、先生たちがたくさんの子供を見るっていうこと自体が、それだけ裏にかかってくる時間が取られると言ったらおかしいが、子供たちのためにやってあげたいことがたくさんあるが故に自分の時間を割いて色々と仕事に当たっているというふうに思っている。

なのでそのあたり、学校と、採用される市の方との連携はどうなってるんだろうかっていう疑問も私はありながら今、A委員が聞かれた学習アシスタントの話でそれに加えて、講師登録というものがあると思うが、実際の活用がうまくいってるのかどうか。

「学級数減らしましょう。それで維持ができました。でも、先生いないんです。産休で休んでも補助はされないんです」という、働き方の何かそれが本当に、ここだけの話で議論されていいものなのかどうかっていうことをすごく不安に思うところがあるので、そのあたりの意見を、もしよかったら先生方からもお聞きできたらなというふうに思った。

まず大きな観点として、１つ学校ということ。

会長	保護者の方の捉え方、それから地域の方の捉え方、やはり立場によっても違ってくるのではないか。この地域の人の立場、これがこれからの適切適正配置を進めていくにあたり、どのような連携が取れているのか。 この地域の人との、適正配置の動きを進めていく中でどんな連携が取れているのか、その辺りについてのご質問が１つ。 それからもう１つは、学校と市の教育委員会との連携、先ほど小中一貫教育の資料 4－2 を元に、形の上ではすぐにできるが、先生の立場からどういうふうに捉えているのかというような観点のご意見だったかと思う。 その点について事務局から答えられる部分があれば、お答えいただきたい。
事務局	まず地域との連携の状況を教えて欲しいというご意見だったと思う。 それについては資料 1 の中でも地域の意見をいただいたところもある。例えば紹介した、資料１の１ページ、小規模な適正配置のご意見の欄にある「子供が少なくなるが地域に学校残して欲しい」や、２ページの校区に関するご意見、「小学生のうちは地域で子供が育つので、小学校での校区緩和はやめて欲しい」であるとか、上の方の小中一貫校のところにも「小中一貫校としてでも、地域に学校を残して欲しい」など、地域の方については、こういうふうに地区の説明会に出てきていただいた中でご意見を頂戴している。 地域には公民館活動や自治会行事、そしてお祭り等がある。そこらは、地域の方とのやりとりの中で意見をいただく。それについては具体的に、まずは対象校を決めた中で、その地域が決まって、その地域、そしてＰＴＡの方々との話し合いの中で、地域の方の意見を踏まえた形にしていきたいと考えている。
会長	今までの各地域での説明会にも地域の方が参加して意見等は伺っている。また具体的に、どういうふうな意見があったかというにおいても、事務局から説明いただいた。この会議委員の中にも自治会長がいるが、学校の適正配置、こういったものを進めていく中で地域の方々の意識というか、そういったものが、もし何かご発言いただけるものがあればいただきたい。
Ｃ委員	私は吉海地区の自治会長もしているが、今治の旧市内と違ってやはり本当に子供の数がかなり少ないということで、学校と地域の結

	びつきというのは非常に深い関係にある。 　私も学校運営委員会にも参加させていただいているが、やはり宮窪町と吉海町で、それぞれ運営委員会をやっているが、それぞれの地域教育課同士がかなり連携を取っており、それぞれ小規模校だけに結びつきが本当に強いなというのを感じている。
会長	地域、学校の繋がりは濃いものがあるというご意見だった。 　あと、他の委員さんもこの件について何かあればお願いしたい。
Ａ委員	私は宮窪の人間で、小学校は（島内に）吉海と宮窪の２つあるが、中学校は１つ、公民館であったり支所であったりとかはまだ吉海と宮窪という形で分かれているが、中学校になると１つになる。 　その辺のエリア分けも、いろんなコミュニティによって変わってくるところがあり、私は宮窪の住人として、例えばこの前、地域食堂を宮窪町の公民館で行ったが、そのチラシを宮窪小学校には配った。そして宮窪地域のお年寄りや地域の方にも、社会福祉協議会の宮窪支部からの挟み込みで配ったりしたが、中学校にリーチしようと思うと、島全体になるので、そうすると中学生には来て欲しいけれども、吉海地域のお年寄り老人会の方々にも、それを広げて宮窪公民館に来ていただくような、そこまでの規模の会にするべきなのかどうかっていうところが、結構いろいろその地域行事とかもなかなかその工夫が難しいところがある。小学校まで一緒になってしまって公民館事業も島全体で一緒になるとかであれば、すごくわかりやすいが、なかなかそこが、どのように連携していったらいいのかっていうのは、多分地域の方々も、今はもう宮窪地域は宮窪地域で何かを行うのであればそこで、というエリアのイメージができているかと思う。 　なかなか大島全体となると、どこまで連携ができるのかなっていうのは、いろんな行政区分とかも変わってくるので、その地域コミュニティの一端を担う学校という位置付けも扱いが難しいところもあるのではないかなというふうに感じている。 　先ほど自治会の方は宮窪と吉海としっかり連携をされているというふうに伺ったので、そういうイメージも島内で色々と共有していかなくてはいけないなというふうに感じた。 　私も宮窪地域の人間というイメージで、日頃生活をしているので、でも、逆に友浦という、ちょっと別の地域、昔は小学校あったけど統廃合でなくなり、もう今はそこから峠を越えて、宮窪小学校に通うという子供たちがいる地域にも暮らしていたので、小学校が

	なくなってから、そこでの小学校活動というか、またエリアのイメージが変わってしまったので、統廃合をするにあたって、このコミュニティのイメージというのをどこまでどのように共有するかっていうところのすごく感覚的なところが大きいのかなとは思うが、ちょっとその辺も、これまでの過去の経緯とかも含めて、上手いやり方があれば教えていただきたいなというふうに思う。
会長	小学校というのは昔、全国各地域に出来たものだから、やっぱり地域と言ったらイコール小学校区といったイメージがある。 なので、今度統廃合となってくると地域の自治的な組織、地域コミュニティ、これもまた再編が連動して、学校の統廃合と連動して地域もまた、組み合わせの仕方なんかを検討していく。 そういったことも大事かなというふうに私も考えている。 もし、この地域コミュニティ、自治会の統廃合といえばいいのか、そういったものにもし動きがあるようなら、その辺り教えていただきたい。
事務局	社会に開かれた学校、地域とともにある学校というところで、今治市では、令和４年度から、４１校の学校が、地域コミュニティというところで、コミュニティスクール、学校運営協議会を開いております。 各学校主体で３３協議会、年間３回から５回、地域の方々と学校が主体となって、地域と学校行事の繋がりや普段の生活との結びつきを強めるために繋がっている。 学校主体でやっているが、そういった公民館主体とかではないが、学校から地域の自治会、先ほど吉海の会長が言われたが、繋がってそういった会合もして、行事等につなげている。
会長	今治市ではコミュニティスクール、地域と学校が連携しながら学校も元気になる、地域も元気になる、そういった方向での取り組みも進めておられるというお話をいただいた。 それではもう１点ご質問いただいた、学校と市の連携の状況、資料４－２を基にお話しいただいたものだが、こういった小中一貫教育を進めるに当たって、制度を変えていくとメリットもあるしデメリットも出てくる。こういったところについて、学校側の意見などは教育委員会としてはどんなふうに把握されているか、お聞かせいただきたい。

事務局	まずご質問がありました教職員の配置についてだが、教職員の配置は任命権者である県の教育委員会が、各学校の学級の数によって定数を決める。 その中で今治市の方では、より良い教育環境を提供するために、多様性のある子供たちのためにということで、学習アシスタントや生活支援員、また、外国から来られた方で日本語指導を要する方の語学補助員、といった市費で支援員、補助員を配置している。 学校規模によるので、学級の少ない学校においては、すべての教科の先生が整わないというような状況があった時には、免許を持っていない教科を免許外の教科指導の申請を行って指導する、というようなことが行われる。 また、年度初めに今治市ではおかげさまで教職員の定数は満たされているが、最近若い教職員の採用が増えており、今治市でも現在、市外県外からの採用が５割ぐらいになる。そういった若い方々が増えてくると、年度途中で産休、育休というようなこともある。そうした時の代理の方がなかなか見つからない状況がある。 こういった場合は、今治越智教育会の教職員ＯＢの方で組織されている、教職員のネットワークやＯＢの方々の情報等を活用して、できるだけ各学校にそういったときの穴を埋めることができるような連携はしている。 あと、小中一貫教育とか、義務教育学校の仕組みだが、その中の１つとして、資料４－２の図に大枠として概要を示したが、中学校の教員がより専門的な指導を小学校で行うことができるといったところ。算数を数学の教員が、外国語活動を英語の教員が、そういった連携はできるようになると思う。そのときの教員の負担や、週の時間数というのは、小中学校の中で、与えられた環境の中で調整していくように、もし決まった場合には、しなければならないかなと思っている。
会長	教員の配置状況等について説明いただいた。 Ｂ委員から質問いただいた学校のご意見をどうくみ上げられていくかという点については中々難しいところもあると思うが貴重なご質問を２ついただいた。またこれから検討していく中で良いものが新しく出てくるのではないかと思っている。 本日２人のアドバイザーの方にご出席いただいているが、今の段階でご意見いただければと思う。

アドバイザー	私自身、年間 300 日ほど全国の学校を回る活動をしている。北海道から沖縄まで行かせていただいているが、この統合の話、そして教職員の不足の話というのはどの地域でも１００％出る課題となっている。 １つ面白い視点をご紹介したいと思う。 どこも同じような課題で悩んでいるが、その地域をどうやって魅力化していけばいいのか、という視点を持って議論を進めている自治体もある。 どういうことかと言うと、先ほどのアンケートの結果にもあったが、人がどんどん減っていく、人口減少社会で減っていくという中で、魅力ある地域、魅力ある街には逆にどんどん人が流れている、流入をしてる。 それがあると、学校も統廃合というよりも現状の維持で人数も足りて、かつ、先生の募集も地域が魅力的であればどんどん来ているという話もあるので、ぜひ街づくりの一環として適正配置についてご検討いただければなというふうに思っている。
アドバイザー	１つ感想としては、資料１の、現状の小学校の学生の数とかを見ると大三島だと、上浦小学校・大三島小学校が８人以下と青色の線が引いてあり、こういった数を考えると、資料３の国が示す適正配置の数から大きく離れていて、これはもう統合する道しかないんじゃないかと、ちょっとつらい気持ちになってしまった。 ただ、私は宿を経営しておりこの１１月に、デュアルスクールという制度を使って、県外から小学生を一時的に受け入れる制度をやろうとして、外部から小学生の人たちを呼んで上浦小学校に一時的に入ってもらった。 上浦小学校に来る時には、現在所属してる地域の学校を休むことなく、一時的に転校するような形で１週間、計４名受け入れたが、とても生き生きと参加してくれて、受入れる上浦小学校側も、クラスや学年が固定しているが、外から子供が来ることで、ものすごい刺激を受けた。そして学校の先生たちも、受け入れる小学校の子たちはクラスが変わらないが外から来た子供を受け入れることで、普段は子供っぽいという印象だったが、意外としっかりとしてクラス団結してよその子を受け入れる、こういった一面が見れたという形で、三方にとってもとてもいい経験になったという話を聞いた。 なので、こういった統廃合で、現状の人数に合わせて教員の数を調整するという話があったが、外部から一時的に子供たちを受け入れる、そういったときに、教員の方が少なければ、そういった受け

	入れるという意向もなくなってしまうので、少し余裕を持った教員配置というのも必要なのではないかな、ということを今日の話を聞いて考えさせられた。
会長	お二人から大変貴重なアドバイスをいただいた。 ありがとうございました。 それでは今日の中心的なテーマである望ましい学校と学校配置について、アンケート結果など整理していただいたが、その辺りを基にご意見をいただければと思う。
Ｄ委員	資料２、保護者等へのアンケートの総括があるが、この下の方で、地域住民として学校に求める機能という問いに対して、児童生徒が健全に成長できる環境、これを求める回答がもちろん一番多いが、その次に、地域の防災拠点として安全安心な施設、そういったことを望む住民の声が多い、ということである。現在、ほとんどの小中学校が、市の指定避難所に指定されている。 子供の学びを第一義として、適正配置を検討するというのはもちろん大事なことだが、地域の代表の委員としては、防災の観点での検討、これをぜひ注視してもらいたいと思う。 近年、地球の温暖化などにより非常に自然災害が激甚化、頻発化している。そういう中で、避難所として非常に大切なことは距離が近い、近くにあるということが非常に大事なことであろうと思う。 地域が高齢化して、核家族化が進んでいる中では、その距離ということが命に関わる問題にもなるんじゃないかと思っている。そういうことで、防災の拠点ということも頭に入れた適正配置を考えてもらえたらなと思う。
会長	アンケート結果を基に、やはり学校は、子供のことが第一だが、それだけではなく、地域にとっても、防災拠点という大きな役割もある。そういう観点からも適正配置を考える中でしっかりと意識してもらいたいというご意見だった。ありがとうございました。
Ｅ委員	アンケートでもあったが、改めて見ると、子供の人数が減ってきていることによって、学校の統廃合等を進めてきてるが、確かに今後、子供たちがどこまで減っていって、統合をするかどうかわからないが、そうなってくると、どんどん当然学校なりなんなり少なくなってくると、資料１、その他のご意見で「10 年 20 年先の子どもの数を考えるべき。短期間に統合を繰り返されると、子どもも地域

	も負担になる」という意見は確かにそのとおりだなと思っていて、あまり簡単にやるよりはまず人数の動向というか、幅をちょっと広げて、先ほどの意見でもあったように、ちょっと余裕を持ったような形の計画の進め方が、何回も繰り返すよりはいいんじゃないかと思った。 それと、先ほど余裕を持った教員配置っていう意見もあったがそれも含めて、きつきつっていうよりは少し余裕を持った感じの計画に進めることもいいんじゃないかと感じた。
会長	長期的な視点。人口減少、少子化というのは確実に進むことはデータからも出ているので、そういった長期的な視点もとても大事にすべきじゃないか。 なのでゆとりを持った計画を検討することも必要ではないか、というご意見だった。ありがとうございました。
Ｆ委員	皆さんの貴重な意見を聞きながら色々思うことがある。 資料１の参考資料２枚目「学校・学年ごとの児童・生徒数及び今後の入学者数見込」は以前に、１回目の審議会時に配布した資料だと思うが、これを見ると、現在、複式学級が亀岡小学校で３・４年生と５・６年生、そして吉海小学校宮窪小学校共に３・４年生、上浦小学校も２・３年生、岡村小学校も５・６年生とある。 複式学級になると先生の負担も大きいし、先ほどから話題になっている余裕のある教員配置といった点では、市教育委員会が工夫して教員配置もしていると思うが、国の基準がなかなか今のところ小学校１年生は８人以下だったら複式学級、それ以外は１６人以下で複式学級となっている。今後も複式学級が予想される学校というのは８人以下のところにマークを付けているが、複式学級になると色んな面で子どもの学び、それから運営への影響というというのがある。 そういった複式対象校についてはやはり統合を視野に入れて、今後、地域協議会で、しっかりと話を進めていただく必要があると思う。そしてその際に、例えば今治市の場合は、もうすでに中学校が一つになっている。例えば、宮窪・吉海地域である大島だと大島中学校。 中学校も吉海地区、小学校も吉海地区ということになると、先ほど言ったコミュニティの中心となる学校の存在も不安になるし、やはり今、中学校がない地域での小学校の存続という形で話を進めていけば、すぐに自治会が統合するのは難しいと思うが、それぞれの

	地域に学校が 1 つは残るという形で話を検討していただくのも手かなと思う。 公民館行事についてのお話が出たが、吹揚小学校が出来た時に、4 つの公民館が残った。それぞれの公民館で行事があるので、私も校長としては子供たちに今まで行ってなかった他の地域の公民館にも行けるからどんどん行きましょうと、先生方にも呼びかけてもらったが、最初のうちは参加が少なかった。やっぱり自分の地元の公民館であれば行きやすいが、隣の地域はちょっと行きにくい。しかしだんだん呼びかけてると行き始めて、子供の方から、地域というのは例えば、今治小学校区だけが自分の校区という意識が、日吉校区も美須賀校区も城東校区も僕らの学校の校区だということでだんだん増えていって、地域の方からも知らなかった子が来てくれて良かった、という声も上がってきた。 そういった広い目で自分たちの地域を、故郷を捉えることにも繋がるかなと思う。 先ほど言われた教員配置についても複式学級だとどうしても少ないので、デュアルスクールで私が一番気になったのは、きっと子どもたちはいいけど、先生の負担は大変じゃないかなというふうに思っているので、色んな意味でも前向きな形での統合を考えていけばいいと思っている。
会長	複式学級に関するご意見をいただいた。 複式学級における先生方の負担、そして子どもの学びへの影響という観点から、複式学級というものはしっかりと考えていくことが大事じゃないかというご意見だった。 また中学校がない地域での小学校の在り方をどうするか、ということもしっかりと検討していかなければならない。 また委員の実践の中で、子どもたちの意識も変わっていく、今までの地域の捉え方がだんだんと幅も広がってくる、そういった側面もあるんだという、ご経験を基にしたご意見をいただいた。ありがとうございました。
G 委員	第 1 回目の会合の時に、それ以前の時のアンケート結果が示されて島しょ部では大島、大三島、複式学級となったら統合やむなしという意見が非常に多かった印象。非常に衝撃的であった。 今回もアンケートをとると、適正人数はこれぐらいと保護者の方が一定数示してくれるというのを感じたので、統合やむなしなのかなと思ったりするが、いろんな意見がある。

	ただ、今回のアンケート調査と先ほど委員が言われた参考資料１データを見ると、おそらく教育委員会の事務方では、こういうシミュレーションができるよな、という思っている案・プランがあると思う。 前回の会合で他の委員が、ある程度形になったものを見して欲しいと。であればこちらで調整するんだということがあったと思う。その方が確かに意見を出しやすいなと思っている。 そういうのがないとやっぱり地域コミュニティをこれからどう折り合いをつけていけばいいかというのは、多分描けないと思う。 今日、Ｃ委員さんは吉海、Ａ委員さんは宮窪ということで、小学校１つになったときに、宮窪にするのか、吉海にするのかという、そういう綱引きが出てきたりするかもしれない。 ただ、案を示さないことには多分それも始まらないなと思うし、あと、学校の数が減るということばかりだとネガティブなので、せっかくなら小中一貫教育であれば小学校、中学校でできるところがあるとしたらどこなのか、そういうのも幾つか示していただきたい。 前向きに捉えながら、統合とか統廃合を考えていってほしいので、できたらそのシミュレーション案で構わないので、作っていただきたい。
会長	具体的な、イメージできるものを提示してあげると議論が広がりやすいというご意見だった。 この辺りは次回、事務局の方から出していただけると思います。ありがとうございました。
Ｈ委員	先ほど地域コミュニティという話が出たが、本校でも学校運営協議会を年に４回開催している。子供たちにとって本校では公民館が５つあるので、公民館活動に出来るだけ私も積極的に出ていき、子供たちもできるだけ地域と繋がるように、公民館の依頼を受けて、例えば文化祭とか敬老会などある中で、年寄りばかりなので中学生にお手伝いしていただけないですかと言われ、ボランティアとして中学生に募集している。中学生も出ていき教員もできるだけ出ていき、地域との繋がりを大切にしようということで、子供たちも本当に積極的にボランティアに参加してくれ、地域の方からもすごくありがたい、というお褒めの言葉をいただいた。 以前は結構悪いことで学校に地域からおしかりのお電話等もいただいていたが最近はそれもすごく減って、本当に良いことで、地

	域の方も見てくれている。例えば、挨拶を良くしてくれ元気をもらったとか、公民館のボランティアで本当に中学生が一生懸命やってくれて地域も助かっているとか、それからお年寄りが１人で川の掃除をしていると部活帰りの中学生が一緒に手伝いましょうかって言ってくれた本当にありがたかったとか、いろんな地域でお声をいただいて、学校も地域と繋がっているんだという実感があって感謝している。 公民館とか色んなところに中学生が出ていき地域との繋がりを作り、地域の方も中学生を見守ってくれている。これは非常にありがたいなと思い、これからも地域との繋がりを大切にしながら、学校もできる限り協力をしていこうと思っている。 学校運営協議会の委員も大変協力してくださり、大変ありがたいなと思っている。
会長	学校教育の中でも、子供たちが行事や色んな活動を通して、地域と繋がる、そういった取り組みに力を入れておられるお話をいただいた。ありがとうございました。
Ｉ委員	私は日吉中学校で学校運営協議会の会長をしているが、各公民館の方にお願いをして、例えば夏休みにお部屋の空いてる部屋があるなら、子供たちの学習のための部屋として提供していただけないかという話をしたときに、公民館からは、いいですよと。ちゃんと表にしてまとめていただき、それを運営協議会として生徒にすべて配布した。すると子供たちはその紙を見たときに、こんなに公民館あるんだと。失礼ですけど、そういうところもあると思う。 そして、友達と行った時に、こんな公民館あった、あんな公民館があったというのも意識に残ると思う。加えて、学校と生徒それぞれが地域を意識することで、その地域の活動に対して理解が深まる、これも大事じゃないかなと思った。 小学校に、吹揚小学校でいうと４つの公民館があるが、それぞれの公民館は今、私 10 年間見てた中で吹揚小学校は小学校１つ、公民館は４つになると、公民館役員のなり手ですよね。例えば婦人会がご飯を作りますという時に、作って欲しいけど、その地域だとはっきりするＰＴＡ役員は０なので、後輩がいないという状況に今結構陥ってるような気がしている。 旗を持って立ってくださっている方も、どこそこの地域では解散した、だから出来ない。この前そういう話があり、だから今治市として、地域を見ていただけるのであれば、そういったところも一緒

	に考えてほしい。 　中学校はいいと思う。中学校はまた部活等でやったりすることもあるが、小学校の場合は、地域コミュニティと小学校という学校はある程度連携し続ける、し続けることができる持続可能なシステムといったことにしていただければ。 　それぞれが負担なく、いがみ合うと言うと失礼だが、年配の方で今までやってきただろうと思う方もたくさんいると、船頭がいっぱいいるとなかなか大変。後から入ってくる若い人は大変なので、その辺も見ていただきながら、学校づくり、校区づくりをしていただければと思う。 　先週、松山でちょっと会議があって、松山から玉川を越えて今治市内まで帰ってくる機会があった。夕方だが、スクールバスと書いた瀬戸内バスが、玉川の小学校なのかな。初めて会った。 　普通に子供たちが飛びおりながらバイバイって手を振っていたのを見てると、そういうスクールバスも当然予算かかるが、市民が真ん中って言ってる市であるならば、きっちり予算取って、これから例えば発表するところ、吹揚小学校も城東の端からだと４５分かけて歩いてきてる。前も言ったが、朝７時に警報が出てたら給食が出ないという時に６時５５分に出発してるのでどうするんですかっていう話。そういうところも、今の市内で一番新しい小学校でもある。 　ということは、やはりそういったところにもちょっと気を配っていただいて、地域を見ていただきたい。 　あと具体的に、例えばここととここの小学校は、こういった人数なので合併した方がいいということを早めにリリースしてもらえれば、地域も別に100％反対というわけではないと思う。もうそれは仕方がない話になるので、そこに例えばスクールバスで通うとこの子どもは学校まで１０分で行けますよとか、具体的な案を美須賀中学校と日吉中学校が合併した時みたいに急遽やるのではなく、ゆっくりしていただければ、地域の方も納得していただける話ができると思うので、また具体的な案をお示しいただければと思った。
会長	小学校と地域が連携し続けるようなそんな体制づくり、これもまた話し合いをしながらしっかり進めていくことの大切さについてお話しいただけた。ありがとうございました。 　それでは他の委員の皆様いかがでしょうか。今回出していただいた、皆様からの意見を踏まえ次回はもう少し踏み込んだシミュレーションの部分も含めて、事務局から提案が提示されると思う。

Ａ委員	今年たまたま今治市の合併 20 周年記念ということで、魅力発掘隊というのが結成されまして私も宮窪地域から参加することになった。 私は移住者なので、私がどこに移住したのかというと、宮窪地域に移住したという気持ちでいる。しかし同時に今治市に移住した、愛媛県に移住したという、大きく捉えていくと本当にいろんな目線がある。20 周年記念事業で、他の地域の魅力を、私も感じることができ、意外と大人の方が、他の地域の郷土文化やコミュニティのあり方というところにまで、なかなか目がいってないのだなというのを感じた。 移住者だけではなくずっとそこに住んでる方、郷土愛を代々持たれている方も、他の地域の魅力を改めて感じられましたという意見が大変多かったのが印象に残っている。 そういう形で、子供たち例えば小部落単位で愛護班という活動をしていたり、小学校区単位で活動していたり、でも習い事でサッカーとか今治のクラブチームに参加していたりとか、そういう形でも様々なスケールでもコミュニティに複数参加するっていうことが子供たちにとっては結構、感覚的にはすんなりと受け入れられる、大人よりも柔軟に考えられるのではないかなというふうに感じている。 なのでそういう広がりの中でも顔が見える範囲でのコミュニティはすごく大切なことではあるので、大人も子供と同じ視点で、同じふうに柔軟に考えつつ、先ほど言ったようにそこをつなげていく人材っていうのがすごく必要だなというふうに感じているので、私も移住者の１人として、そういう部分に関われたらいいなと思って地域の活動をさせていただいている。 またこの校区の再編の中ででも、そういう感覚を持って取り組んでいけたらなと思う。感想になります。
会長	それでは皆様方、今日は資料 2 で保護者等のアンケート結果をある程度集約したものも提示しているが、例えば、今日の資料 2 のところで具体的にいうと、この審議会に直結するが、２ページ目、学級数は、小学校の場合、保護者・教職員ともに２から３学級がいいんじゃないかとご意見。保護者の方は、学級数を問わないという意見もある。 児童数は２０人程度、３ページの中学校は３学級、或いは学級数を問わない、こういったご意見である。生徒数は３０人程度。 こういったところで、一応アンケート結果を集約している。また

	４ページには、通学時間を中心にアンケート結果を集約している。この辺りについて、何かご意見等ございましたら仰っていただい。
Ｉ委員	アンケートでは小中学校の保護者や未就学児の保護者が学級数を問わないと言っているが、教職員だけは学級数を２から３学級と言っている印象だった。 はっきり言うと、いじめとかがあると学級を替わった方がいいかなというところは、保護者はその立場にならないとなかなかわからないと思うので、その点で教職員の方はすごいなと思った。 ただ、子供たちの数だが、人口がめちゃくちゃ減っている中で２０人という数、学級編制の基準ということで国・県は３５名と書いているが、今治市が出来るとは思っていないが、ある程度２０人という数に減らしたほうが学校としてはすごくいいんじゃないかなと思った。ただ通学時間というのは吹揚小学校の場合も歩いて３分の子もいれば、歩いて４５分から５０分かかる子もいるので、通学時間は最終的に合併した時に、スクールバスを出すとかいうレベルで収まるかなと思う。
会長	学級数については、複数あることの意義、学級編制が出来るかどうか、その辺についてのご意見だった。通学時間等については決まってからよりよい対応の仕方を検討するという方法もあるんじゃないかというご意見をいただいた。
Ｆ委員	今、Ｉ委員さんが学級編制基準で人数のことを言われたと思うが、国の基準が３５人。山梨県は県独自で２５人学級を推進していて、どんどん成果が上がっていることだが、一番のネックは教職員給与の財源である。人を雇うとなるとどうしてもとてもお金がかかる中、県単位で頑張っているので、山梨に人口が流出するかもしれないと思ったりしている。 愛媛県も３５人学級を国に先駆けて１年生とか先に入れたりしてたが、この後、国が基準を考えてくれたらいいなとは思うが、これは市単独ではなかなか難しいと思う。こういうことはみんなが声を上げていかないとなかなか難しい。最後のところは願望です。
会長	より良い方向に向かってみんなで声を出すということはとても大事なことで、そのためにこういう会があるんだと思う。
Ｊ委員	先ほど出た学級数だが、保護者は学級数を問わないが教員が多く

	している。１つは子供たちの人間関係のことも考慮してのことだが、学校内部の教職員のことも考えている。今は若い先生、新規採用の教員がどんどん入ってきている。単級で新規採用教員に任すよりも、複数学級でベテランと組み合わせた方が指導もしやすいし、新規採用教員は研修で出張も多くあるので抜けたときのカバーも含めて、ベテランと組み合わせたほうがやりやすいっていう点で、希望が出てるんだと思う。 それから、教職員の配置について意見が前半出た。事務局から答えていただいたが、学校現場としては、市の教育委員会とお話しする機会を多く持っている。絶えず校長から、教員配置についてや教員の希望について市の方に要望して、それに応えていただいてる現状である。 教員が足らないというのはもう正直なところある。これはもう現状なので、受けとめないといけない。その代わりに生活支援員や学習アシスタントを多く採用していただいている。 それも、本当に子供が好きな方を採用していただいてるので、一生懸命やってくれている。その方たちも子どもと接していたら、勤務時間にこだわらないで子供が納得するまで一緒に付き添います、というふうに言ってくれるような方が配置されているので学校現場はありがたく思っている。 そして教員の働き方は、確かにしんどい面ばかり見えるが、実際教員の働きがいはどうかというと、本校では、今の学校を替わりたいと思っている教員はいない。１人もいない。 だから、一生懸命みんなでまとまってやっていこうという雰囲気があれば、多少ブラックのような雰囲気があっても乗り切れるというふうに思っているので、その教職員の人間関係づくりの向上に努め、いいような雰囲気に持っていってやれば何とか乗り切っていけると思っている。 どのような学校体制になっても、教員としてやっていける体制を作っていこう、と校長として思っている。
会長	校長会をリードしていただいているＪ委員から学校としての校長会としての取り組みについて、また状況についてお話をいただいた。ありがとうございました。
Ｋ委員	まずアンケートの回答、これにつきましては就学前乳幼児の人の回答率がちょっと低いんじゃないかな。意識がちょっと４８パーセント。ちっちゃい子であれば７０パーセントとかそのぐらいの回答

	率が欲しいかなというような感じがした。 　そして要望については旧市内と陸地部と島しょ部、そこのところで人口の割合によって、これは３学級１学級とか、そういう形態になるというふうな、そういう要望になってくるんじゃないかなと思う。 　Ｆ委員が言われたように、例えば体制が厳しいと言いながら、本来ある基準が３５人であれば、市で何人まで児童数をやれるのかなと。 　僕は、ある程度ここまでは許容範囲で、人数がやれるんじゃないかなということを、財政をあまり圧迫しても困りますけども、教育委員会にも提示していただければありがたいかなと思っている。
会長	今後検討していく中で同じ今治市の中でも島しょ部とか陸地部とか地域の実態に応じた対応も検討していくことが必要ではないかということを中心にご意見をいただいた。
Ｇ委員	次回、もしかしたらシミュレーションが出てくるのかなという方向性だが、このアンケートを見たら１学級の望ましい人数でいくと確かに島嶼部、離島の関前地区であれば、もうこういう枠では考えられないようなところになってくると思う。 　私は２０周年記念事業の魅力発掘隊で関前地区のメンバーになってるが、子育て世代というのは移住者である。その方々は、やっぱり残して欲しいという要望を強く持っている。 　そんな地域の特性に合わせたら、色んなシミュレーションが出てくる中で、数合わせだけではなく、今治市として魅力的に、こういう移住者を、子育て世代を招き入れるんだけど、こういったプランを持ってるんです、というような施策的なものも出して欲しいなというのがある。ここを残すとしたらこういうやり方がある。 　あと、不登校の子たちが非常に多いと思う。もしもその場合に、転校できるとか、３学級ぐらいのとこであれば小規模校に移ることができるなど環境を変えることができるならば、そういったところで、弾力的にうまく動かせるかどうかとか、そういった部分も、次回、プランの中に示してもらいたい。
会長	移住促進プラン、そういったものも関連させながら、この通学区域の検討を進めていくのも大事じゃないかなと。 　今やっぱり学校現場で、大きな取り組み内容になっている不登校、こういった問題への対応、こういったものも視野に入れながら

通学区域の検討が出来ればと思っている。

まとめるのが難しいぐらい、いろんなご意見が出たかなと思う。この辺りはまた議事録で確認いただきたい。

それでは、いただいたご意見をもとに、第４回では具体的な今治市の基準が事務局から提示される予定となっている。

それでは、議事の４その他に移りたい。

これは、前回、第２回に求められた資料についてだが、皆様方の机上にお配りしているので、それをご覧いただきたい。資料 4－1から資料５までの資料です。

では、今回までの議論を踏まえて、次回４回には、先ほど申したように、具体的な基準案、これを事務局から提示をしていただきたいというふうに思う。

最後に、今後の会議にあたり、収集して欲しい情報や必要な資料など、事務局への要望があればお出しいただきたいが、いかがでしょうか。今後あれば、事務局の方までご連絡いただきたい。

長時間にわたり、熱心にご協議いただき、誠にありがとうございました。

これをもちまして、第３回今治市通学区域調整審議会を終了させていただきます。

以上、会議の次第を記し、その相違ないことを証するため署名する。

令和７年１月１０日

村上委員　村上保広

髙橋委員　髙橋典子